

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500105		
法人名	株式会社 文化タクシー		
事業所名	グループホーム ポランの広場いなせ		
所在地	岩手県奥州市江刺区稲瀬字水先629		
自己評価作成日	平成23年10月31日	評価結果市町村受理日	平成24年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0391500105&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が馴染みの環境を築きやすく、入居者様同士、又は併設する小規模多機能居宅介護の利用者様とのコミュニケーションも取りやすい環境作りと、親しみやすい家庭的な雰囲気作りになる様に努めております。
 入居者様も食後の後片付け(茶碗洗い等)や、生活リハビリを含めたレクリエーション活動にも積極的に参加されており、職員一同も入居者様1人ひとりの能力に応じての健康維持を含め、それぞれの日常に張りのある生活になる様に支援させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームポランの広場いなせ」は、平成23年1月に開設された新しい事業所で、小規模多機能型と併設になっており、街から少し離れた田園風景が広がる静かなところにある。
 運営推進会議の構成員の中には、警察署員・消防員がおり常時参加していただき、防犯・火災対策等について特に助言を頂いている。
 今後取り組んでいこうと考えていることは、地域の学校や住民の方への発信(お祭りの参加の呼びかけや、学校、保育所との交流など)などが挙げられる。
 建物は、床暖房となっており、温かくゆったりと過ごすことが出来る。天窓からの採光や、居間の窓ガラスも大きく、廻りの風景を見ることができ、季節を感じる事が出来る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本方針の浸透に始まり、介護理念の共有と心がけ七か条を実践できる様に努めている	基本方針と介護理念7ヶ条は、併設されている小規模多機能型と共通としており、管理者が作成した。玄関とスタッフルームに掲示されている。毎月1回のミーティング等で理念を実現するため、話し合っている。明るい笑顔、挨拶などを大切にシケアに当よう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣にある産直に利用者と共に散歩がてら出かけたり、自治会との相互協力を図り、地域の皆様との交流をより一層深める様に努力していきたい	自治会には加入してはいない。毎月発行されている照沢集落だよりに当事業所の紹介が掲載された。ホームの広報の配布や夏祭りの参加の案内は、利用者、家族のみである。	夏祭りの参加には地域への案内、ボランティアの受け入れを考えており、自治会長を始めとした自治会活動への積極的な参加や日常的なお付き合いを今後進めて頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して、認知症についての理解を深めていただいております。今後についても認知症や介護保険制度、その他についても疑問・質問・相談に柔軟に対応していきたいと思う		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回の会議を開催、施設からは利用者状況や行事報告を含めての事業所の現状を報告、それらについて、構成員からの意見を頂き、問題点を抽出・検討して今後のサービスの向上に反映させる様努めている	運営推進会議の構成員として区長、消防署員、警察署員が常に出席していただき、特に防犯・火災についての助言を頂いている。	様々な立場の方々が集まる場であり有効的に交流が図ることが出来る。地域活動参加への「きっかけ」となるよう議題の工夫や参加者が主体で進めていけるような会のあり方の再検討等に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席頂く他、運営上、その他についての疑問をその都度ご相談させていただき、ご指導をいただいている	市の担当者とは、入居する前に利用者の情報を頂いたり、ホームの運営上の相談に乗って頂いたりしている。市の派遣の介護相談員も来訪し、利用者とお話をしたり、助言を頂く機会がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる具体的な行為、弊害を理解しているが、家族の安全に対する要望や防犯上の意見等も考慮し、状況に応じての対応、玄関の施錠をやるを得ず行うこともある	身体拘束に関する内部・外部研修や勉強会の取り組みは現在のところ行われていないが、弊害への理解を更に深めていって頂きたい。外出傾向の利用者(3名)がおり、散歩をしたり見守りをしているが時間帯により施錠している。その家族には説明をしているが全員の家族には周知していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設に限らず、全体的に取り組むべき課題であり職員全体会議やカンファレンス等において検討されるべきもので、少なくとも当事業所では今まで虐待ゼロであり、今後も発生ゼロを目指していく		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体会議等の機会にでも、成年後見制度についてや日常生活自立支援について勉強会を設けたいと考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の権利・義務、施設の内容・義務等をなるべく分かりやすく説明し、疑問や質問にも理解・納得していただける様に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時の利用者・家族からの意見を反映させると共に、申し込み時、契約時にいつでも意見・要望・苦情等を受け付ける旨を説明し、受けた意見については検討して改善を図る様努めている	運営推進会議の意見交換時に、より意向や希望を聞くほか面会時に利用者の様子を伝え意見を聞くようにしている。夜間の体制について不安があることから一定期間、人員を増員するなど対応したことや家族以外の方が利用者に面会に来た時の面会簿の作成と家族への報告に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議やケアカンファレンスの機会を重点に、日常の引継ぎ時においても意見を聞く様にし、その都度答えを出せる様に努めている	毎月1回職員会議時や利用者の事柄についてはカンファレンス会議を中心に意見を出し合っている。必要な備品類や勤務体制での早番・遅番の仕事を明確にし、効率よく出来るよう職員意見も取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開所後1年未満の実績しかないこともあり、未整備の部分が多く、今後の課題として改善していきたい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設で研修出来る機会を設け、知識・技術の向上に努めると共に、実践でも随時、知識・技術を習得できる機会を設ける様に考慮する		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック単位のGH連絡協議会等に参加してネットワーク作りや勉強会、他施設の見学等を行い、施設サービスの向上に反映する様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族の方が見学・相談にみえられた都度、疑問・不安・要望等を聴き取り、一つずつ答えて解決し、安心感をもっていただき、信頼していただける様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所しての直接相談時に限らず、電話においての相談でも困っている事や疑問・質問等に出来るだけ答える様にし、信頼していただける様に心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に対応しながら、話しの中からその方の生活環境や健康状態・その他を把握する様に努め、本人の状況に適したサービスを提供できる様に心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員自体も同じ場所で生活する者として、それぞれの得意な分野を教えたり、教えられたりしながら協力して共存できる環境作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所して頂いた際、または連絡が取れる機会がある毎に生活の様子や身体状況の報告をし、本人の支えとして協力を頂ける様に支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会時には居室で過ごしたり、一緒に出かけてゆっくりする時間を設け、また通院時の対応は原則家族にお願いし、馴染みの人との繋がりを大切にす様に努めている	入居前に家族からの情報を得て把握に努めている。利用者の自宅に行ったり、家族の協力を得て、命日には仏壇を拝みに行ったり、かつて絵を描いていた方は、家族と(絵の)展示会に見に行ったり等、様々な支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握し、出来るだけ気の合う同士が交流する様に配慮し、時によっては全員が和める場を提供する工夫をしながら、円滑に過ごせる様支援している		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	築いてきた関係を大切に、いつでも相談に応じることができる様に心がけている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションからや会話の困難な方は言動等から思いや意向を読み取り、出来るだけ希望に沿った支援を心がけている	職員は一人ひとりの思いを、気づきノート・業務日誌・経過表にそれぞれ記述している。ゆっくりと分かりやすく話しかけるなど、目線を同じくするよう心がけている。意思表示困難な場合は、表情やしぐさを注意深く見るようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントシート活用やケアマネジャーに聴き取りを行い、本人や家族とのコミュニケーション等の中から情報を収集し把握に努める様にしている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況観察を毎日行い、様子や変化等を申し送りする等して情報を共有し、現状の把握に努めている	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員から情報を収集し、カンファレンス等で話し合い、現状に即した援助計画を統一して行う様に努めている	利用者の担当職員は決めてはいないが、気づきノートや業務日誌・経過表・職員の聞き取りで情報収集をしながらプランを立て、3ヶ月に1回モニタリングをしながら、家族が来訪した際には説明をしているが、現在のところ要望などは特に出されていない。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を作成して、日々の様子や変化等を記録し、職員間で情報の把握と共有を行い、実践に活かす様に努めている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人からの意見や要望があった場合、出来るだけ添える様に取り組み、適切に支援できる様に努めている	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の皆様とは今後も連携して協力体制の強化を図って行き、利用者の安全で豊かな暮らしに反映される様、支援活動を行っていきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師がグループホームにおける様子、変化等を記録、定期通院時かかりつけ医に報告するとともに通常と異なる様子が見られた場合は家族に連絡、かかりつけ医と連携をとり、適切な医療を受けられる様に努めている	定期的な通院(専門医も含む)は家族対応で、かかりつけ医となっている。緊急時等についてはその限りではない。利用者の日々の様子やバイタルは、看護師が書いたものを家族に渡し、医師に伝わるようにしている。受診後は家族と連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化が見られる場合等、その都度報告を行い、相談して適切な対応が取れる体制となっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院への情報提供を行う体制を整備する等、利用者・家族が安心して療養できる体制作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合い、施設として対応出来る事と出来ない事を明確にし、できる限りの支援をして行ける様に取り組んでいきたい	開設から日が浅いこともあり、終末期、看取りについては具体的な対応は行われていない。今後、重度化等について、利用者や家族と意思確認等の機会を持つこと、家族間において話し合いや学習の機会を設けたいと考えている。	状況変化に応じ、繰り返し話し合いや段階的な合意の必要性を本人・家族へ伝えていくことが大切である。職員間での出来ること、難しい事を明確にし、意識の共有、学習の場を作っていくことに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の受講や施設のマニュアルを作成する等しているが、定期的な訓練は行えておらず、全ての職員の実践力については今後の課題である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を頂き、実際に通報したり、模擬の消化器を使用し、利用者の避難誘導等の訓練を行ってはいるが、地域の協力体制については準備不足であり、今後の課題である	小規模多機能と合同の訓練で、現在のところ1回の実施である。グループホーム独自の取り組みと地域への呼びかけも今後の課題である。3月の震災以降、備蓄は食糧・水を用意している。	どんな場面でも速やかに対応出来るよう繰り返し行うことが大切である。特に足場の悪い夜の訓練の体感も重要であり、地域との協力体制を築くための一層の働きかけにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、職員の何気ない言葉遣いや態度の一つひとつで不穏になる可能性がある事を周知徹底し、配慮のある支援を心がけていきたい	特にトイレでの羞恥心等の対応では、不安も起こらぬよう心がけ、不適切な行動や、言葉があった際は、その日のうちに注意をしながら日常的な確認と改善に努めている。個々の状況にあった声掛けをしていけるよう職員間で共有するように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる環境作りと共に、声掛け時の様子や言動等から、ニーズを読み取る様に努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペース等は概ね理解しているが、施設職員側の都合が優先される事が少なくない為、今後の課題として検討したいと考えている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域近隣にある理容・美容室の協力を得る等して本人・家族の希望に副いながら、清潔を心がけて支援する様努めている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や片付け等、協力して行える様な環境作りに努めている	献立は管理者が1週間分を利用者からの好みを聞きながら作成している。買い物には出かけることはないが、畑の収穫を(トマト、胡瓜等)一緒にしたり、食卓にあがる喜びもあり、楽しく食事をし、下膳のお手伝いなど出来ることを支援している。利用者によって食べられないもの時は代替えのメニューで対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を記録に残し、把握出来る様にしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝前を含み、個々の有する能力に合わせて、声掛けや洗面所への誘導等を行っている			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用している方でも、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄が続けられる様自立に向けた支援を行う様心掛けている	個々の排泄の回数を把握している。夜間のみポータブルを使用(2名)している方と夜の声掛け(1名)をしている方がいる。トイレで行えるよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、記録を把握して水分の摂取量や運動等で便秘予防に努める様にしているが、改善の様子がない場合には下剤での調整もしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望に添って入浴して頂ける様に努めてはいるものの、施設側の都合で入浴の日程を決め手しまう事がある	個々に曜日(火、木、土)を決めて午前中に実施している。自己評価にも記されているように、事業所の都合により、日程及び時間帯が決められている。入浴可否のバイタルは個々のかかりつけ医の受診内容や看護師の判断、本人の様子から入浴に結び付けている。	入浴のタイミングや日程など、利用者の希望に添えるよう職員間での話し合いを期待し、「本人本位」「自分らしさ」等を根底に置き、日常生活の様々な場面において利用者が自分らしい楽しみ方を感じていけるケアを目指していくことを望みたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンやその時の状況に応じて休息が取れ、寛いで頂ける様にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別にどのような目的の薬を服用しているのかについてやまたその副作用についての知識は、概ね理解はしているという程度である		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク活動を中心に、たこ焼きやギョーザ作り、花の移植を手伝って頂いたり等の役割に参加して頂き、能力に応じて出来る事への支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂ける外出やドライブ等の計画を立てて、外出の支援を行なう様にしているが、今後は地域の皆様と連携しての協力体制を整えて計画していきたい	季節毎のお花見や、ドライブ等を行っている。畑の草取りや、花壇に花を見に行ったりには出かけている。車いすの方は庭で日向ぼっこをしたりしている。野菜が採れる時期には畑に収穫にも出たりしている。	個々の利用者の希望の把握に努めながら思い思いの行きたいところに出かけるような支援と、地域の方々の協力が得られるような働きかけに今後は期待したい。

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム ポランの広場いなせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、トラブルを避ける為に基本的にお金の所持はなるべく遠慮していただいているが、自販機に使用分程度の所持は認めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来るだけ希望に応じて電話をしたり、取次ぎをして家族や外部との交流関係が円滑に継続出来る様に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光や温度、湿度の調整に気をつけているが、猛暑日等の対策については不十分であり、今後の検討課題としたい	共用空間には利用者の「はり絵のこいのぼり」や「七夕の作品」が貼られている。クリスマスツリーやリースも飾られ季節が感じられる。ドライブ、干柿作りの写真が笑顔で見られ、生き生きとした雰囲気を感じられた。皆が見る大きなテレビの下に日付を書いた手書きカレンダーがあり、一目で日にちが確認できる。洗面台には口腔ケアがいつでも出来るようセットされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア等で歓談やゲームをしたり、1人でテレビを観たり、新聞雑誌を読む等、自分の時間を持つ様に配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談して、使い慣れた物や好みの物を置く様にして、なるべく落ち着いて過ごせる様に配慮している	備え付けのベット、タンスが基本で、あとは利用者個々の持ち物となっている。ご家族の写真を多く飾っている方、ご自身で作った作品(ぬり絵、クローバーの押し葉など)が見られた。ラジオの好きな方は自由に聞いている。採光もよく明るい雰囲気の良い居室であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に補助具を使用したり、理解しやすい様に貼紙を利用する等して安全に配慮配慮しながら自立支援に努めている		